まちのできごと

1/31 北海道善行賞（交通安全実践者）
交通安全運動に多大な貢献

交通指導員を務める今哲氏が北海道善行賞（交通安全実践者）を受賞され、１月31日、札幌市において表彰式が行われました。

今氏は、平成23年４月から交通指導員に就任し、現在まで地域の交通安全活動に尽力されております。このたびの表彰は、これらの功績等に対して贈られたものです。

心からお祝い申し上げます。

↑表彰状を手にする今哲氏（3月10日撮影）

3/12 オンラインスマホカメラ講座
撮影のコツを学ぶ

札幌を中心に活動するフォトグラファーの田中ゆき氏を講師に迎え、雄武町図書館「雄図（ゆーと）ぴあ」でオンラインスマホカメラ講座が開催されました。

講座では、参加した町民１３人がぬいぐるみなどを被写体にして撮影を実践。スマートフォンの多彩な機能などを教わりながら、撮影時のコツを学んでいました。

参加者からは「スマートフォンでも、撮り方を工夫するだけで写真の映え方が全然違う。講座に参加できてよかった」という声が聞かれました。

↑スマホのカメラ機能について説明を受ける参加者

↑ハンター（鬼）から逃げる児童たち

3/11 ６年生を送る会（風の子児童センター）
仲良く最高の思い出に

４月から中学校に進学する６年生を送り出す「６年生を送る会」が児童センターで行われ、多くの児童が集まりました。会では、人気テレビ番組「逃走中」を模した鬼ごっこを実施。児童センター職員とボランティアで参加した雄武高校の生徒がハンター（鬼）になり、児童たちは捕まらないように館内を逃げ回りました。６年生は、児童センターでの最後の行事を楽しみ、下級生や仲間たちと最高の思い出を作っていました。

↑卒業証書を受け取る卒業生

3/15 雄武中学校卒業証書授与式
母校からの旅立ち

この日、雄武中学校で卒業証書授与式が挙行されました。

式では、大崎禎浩校長が卒業生３４人に対し「自分の足で歩み、自分の思う幸せをつかんで欲しい」と激励。卒業生からは、今まで支えてくれた家族や先生、在校生へ向け感謝の言葉が贈られました。

涙を浮かべる出席者もいる中、拍手で祝福された卒業生は、３年間の思い出を胸に母校を旅立ちました。

町長コラム

雄武町長
石井友藏

皆さん、こんにちは。

我が町も春本番を感じられる暖かさとなりました。

春といえば、入学式や就職など新しいスタートに心が躍る季節です。新たな環境に不安を感じる人もいるかもしれませんが、夢や希望に向かって努力をし、焦らず一歩ずつ前に進んでほしいと思います。目的を達成するため、自分を信じ、勇気をもって多くのことに挑戦してください。

さて、前回のコラムでもお話ししましたが、５月８日からは、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが５類へと変更され、これからは徐々にコロナ禍前の生活を取り戻し、経済活動も活発になっていくと思われます。当分の間は、個々に感染予防を心掛ける必要があるとは思いますが、本年は、町に明るく元気な話題が溢れることを期待するところです。

一方、ロシアによるウクライナ侵攻の影響による物価の高騰は、私たちの生活に大きな打撃となっているところですが、国の政策と合わせて、本町においても状況に応じたきめ細やかな支援や対策を、適時講じていかなければならないと考えています。

町長コラムを発信してから１年が経ちました。これからも私の思いを発信していきたいと思いますので、よろしくお願いします。

Activity Report
地域おこし協力隊　～活動レポート～

地域おこし協力隊
観光支援員
タオ さん

2月25日と26日に雄武町商工会主催の「あったか冬マルシェ」が道の駅おうむで開催されました。今回、私はベトナムフードを町民の皆さんに紹介し、また交流活動としてベトナム技能実習生にイベントへ参加してもらおうと考え、「ベトナムキッチン」を出店し、ソイ・コック（ベトナム風のおこわの一種）とバインミー（ベトナムサンドイッチ）を販売しました。

バインミーのパンについては、「スイーツの里栄丘」のお母さんたちが作るパンの種類が増えてほしいと思い、声をかけて一緒に作りました。フランスパンと少し似ていますが、外はカリカリ、中はふわふわというのがバインミーの特徴で、発酵時間や焼く時の温度・湿度など工夫が必要です。初めての挑戦で失敗が続きましたが、試行錯誤をしながらようやく成功しました。

これからは、栄丘のお母さんたちに、パン作り体験などでバインミーも作ってもらえたら嬉しいです。

マルシェ当日は、どちらも皆さんから評判が良く、本当に嬉しかったです。

また、外国人が町のイベントにも参加できるように、26日はベトナム技能実習生の数人に販売を協力してもらいました。最初は、言語の壁もあって少し困っていましたが、どんどん慣れてきて順調に進みました。

そして、次々と注文が入り、完売まで休む間もなく忙しかったのですが、「楽しい！次はいつやりますか？」とみんなが喜んでいました。そして、遊びに来たほかのベトナム人たちも地元のお客さんと一緒になって会話を楽しんでいました。

このようなイベントに参加できれば、外国人が日本における生活を楽しむことができ、日本の在留時間もさらに有意義なものになるのではないかと思います。町民の皆さんと話せたり、実際に使っている言葉を覚えることをきっかけに、日本語の勉強に対するモチベーションも上がりますので、今後、ベトナム人の協力が必要であれば、声をかけていただきたいです。

※地域おこし協力隊でこのコーナーを順番に担当しています。お楽しみに。